

韓国人高齢者に向けた日本語教育の方向

張 栄 花

要 約

現在韓国人高齢者のための多様な教育機関では老人教育プログラムにおいて外国語教育プログラムの一つとして日本語教育が活発に行われている。

しかし教育環境と教育プログラムが、様々な側面から見て、高齢者たちに適切だと思われぬ部分がある。本研究では、韓国のソウル市内にある福祉館三つ機関における授業観察や高齢日本語学習者たちと教師たちを対象としたインタビューの内容部分を通して、現在高齢者たちを対象に実施されている日本語教育が、これから進むべき方向について考察および示唆を導き出すことを目的とする。

1. 現在ソウル市内の福祉館の日本語授業形態

- ①週に二日、一時間ずつ行われている。
- ②授業は初級と中級の二つのクラスで構成されている。
- ③初級と中級には教師が各1名ずつおり、教材も初級と中級、別のが使われている。
- ④一つのクラスが50人定員で、席が指定されている。
- ⑤他の年代（例：大学性、中高生…）の学習者より日本語能力レベルが多様であり、学歴と年齢により日本語能力の差が大きいと思われる。

全体平均年齢:72.5歳

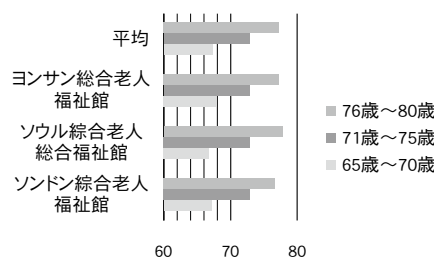


表2 三つの福祉館の平均年齢

2. インタビューの内容分析

2.1. 高齢学習者へのインタビュー方法

インタビューは参考資料に示した15項目をメインとして質問をした。

方法としては、1対1の個人面談の形式を取り、制限時間を決めずに自由に話してもらった。

質問内容を15項目に決めた理由は、先行研究（SONG HWA JIN 2000）において、高齢者たちに数多くの質問をすると、負担をかけてしまい、質問に対して適切な意見が出にくいと報告されていたからである。

2.2. 高齢学習者へのインタビュー内容分析

性別構成表

| | ヨンサン総合老人福祉館 | ソンドン総合老人福祉館 | ソウル総合老人福祉館 | 合計 |
|----|-------------|-------------|------------|-----|
| 男 | 12名 | 11名 | 17名 | 40名 |
| 女 | 18名 | 19名 | 13名 | 50名 |
| 合計 | 30名 | 30名 | 30名 | 90名 |

表1 各福祉館の性別構成比

国語²として日本語を学んだ戦前世代³と戦後世代との日本語実力には相当な差があった。

戦前世代の特徴としては、発音もネイティブに近い発音であり、自分の発音が悪くないことを認識しており、またインタビューにおいては、日本語混じりの言葉が多用していた。

戦前世代は日本語学習経験があるので「もう一度日本語を学ぶ」ということに学習目標をおいているのに比べて、戦後世代は「日本観光」、「日本にいる娘に会いに行くため」、「外国語を1つぐらいは話せるべきだ」と言う意識、「ボランティアとして日本語を使用したい」などのより明確な学習目標が明らかになった。

戦前世代は、戦後世代に比べ、授業以外の(個別的な学習)日本語学習に関しては積極的な態度で臨んでいた。

例えば、「本、日本放送、新聞に出ている日本語、雑誌などを自ら探して日本語勉強をする」や「日本語勉強をもっとしたいが関連資料を探せないで勉強ができないので残念だ」などの意見が出された。

また戦前世代も戦後世代も、日本語授業の中で一番興味深い部分は、「日本語が話せるのが一番楽しい」

と言ったが、一番難しい部分では「文法の勉強が一番難しい」と答えた。

しかし、戦前世代の学習者の多くが、「動詞の活用が大変だ」という意見を出していたが、いざ会話するとなすと、正しく動詞を活用できる学習者が多かった。

このような状況は、幼いごろ日本語を学んだ時、文法を個別に学ぶことなく「話す」ことを優先的に学んだことによる現象と言えらるだろう。

現在の教育環境についてはほとんどの学習者が満足しており、学べる環境があるということだけでも感謝していると答えた。

授業についての改善点としては「週に2回の授業では物足りない」が一番多く、「授業時間に会話練習ができる機会を多くしてほしい」という意見も多かった。

すべての学習者には当てはまることではないが、日本への感情は戦前世代のほうがむしろ好感度が高く、戦後世代もまた学ぶことが多い国と言っていて、好感度が高いと思われた。

日本ご授業を通して自分自身に自信を持つようになった。

また、新たなものを身につけ、記憶力がよくなったという意見もあった。

特に、「福祉館で日本語学習を始めたことによって、今まで忘れていた日本語を思い出すようになり、日本語の本を読める水準にまで戻った」というある学習者の話は、非常に興味深かった。

ほとんどの高齢学習者が健康でいられるかぎり、日本語を学び続けたいという強い意志を見せてくれた。

ボランティアや日本人高齢者との交流などについては、できればほとんどの学習者が積極的に参加したいと答え、一部の学習者は東大門市場などでボランティア活動をした経験があると話していた。

学習過程における問題点としては、老化のために起こる身体的疲労と記憶力減退が一番多かった。

教材については会話の内容を「もっと高齢者に合う面白い内容を多くしてほしい」ということと、日本文化や歴史の紹介をもっと多様にしてほしいと言っていた。

日本語以外にも英語や中国語のような外国語学習にほとんどの学習者が関心を持っていて現在学んでいる学習者もいるのがインタビューを通して明らかになった。

2. 3. 日本語教師のインタビュー内容分析

教師とのインタビューは参考資料に示した10項目をメインとして質問をした。

高齢者に日本語を教えている教師（計5名：すべて

韓国母語者）は15年以上、多様な学習者に日本語を教えた経験があり、奉仕するという気持ちで高齢者を対象とした日本語授業を行っている。

教える時重点を置くのは、日本語をより多く話せる機会を与えるために文法的な指摘や説明より、反復練習を主にして授業を行っている点である。

高齢者を対象に授業を行っている教師の信念としてみられたことは、授業を楽しく、学習者たちが飽きないように進行するのが一番大事としている点であり、このような信念によって歴史の話や歌、日本文化などを、授業の中でどう生かして行くかについて研究を重ねていることが分かった。

教師たちも、韓日高齢者の交流については積極的に参加する意思があり、ソウル老人総合福祉会館の場合は、九州の日本大学院生と今まで交流しているという。

3. 高齢者を対象とした日本語教育の方向性について

① 高齢者を対象とした日本語学習は、学習者ごとの個別的な特性（学習者の年齢および学歴、日本語学習動機や日本語能力、環境など）を考慮すべきである。

② 学習者の年齢および学歴、日本語学習動機や日本語能力、環境などを考慮し、学習者が自ら日本語学習における学習目標を設定できるように導く。学習目標の設定を通して、高齢者を対象とした日本教育が体系化し、今までの高齢者を対象とした教育では見られなかったような新たな方向へと導くことができるであろう。

例) 老人教育では高齢者の人生の目標を三つに分けて説明している。

1. 生き生きとしていること

実際に外国語学習を通して痴呆予報の成果が報告されている。

김금자(2000) 오복자(1994) 윤미정(2004) 이인자(2000)

2. 余暇をやりがいをもって過ごすこと

高齢者に余暇としてやりがいを持って過ごす方法として一番多く選択されるのは、ボランティアと観光である。

(教育部平成教育白書第参3号1999, PP.83)

3. 孤独感を感じることなく生活すること

장인협外「노인복지학」, 박명순「노인교육과노인학교」

実際にインタビューを実施した時多い学習者が友達と会い、話合える機会が多くて楽しいと答えていた。

日本語という共通の関心を持って「[コミュニテ]を作りお互いに学習に必要な資料交換や補充学習のような形で交流するともっと生き生きとした生活が過ごせる。(西草老人総合福祉館)

③高齢者を対象とした日本語教育について具体的な教育プログラムが必要である。

1. 初級と中級という2つの分類に止まらず、より多様なクラスを編成する必要がある。
2. 高齢学習者に適した教材の開発が必要である。
3. 高齢学習者自らが回りにある日本語学習のリソースを活用できるように導く必要がある。
4. 異なる機関に属する教師同士の情報交換の場を作る必要がある。

4. おわりに

現在韓国では、多くの高齢者が日本語に大きな関心と学習欲求をみせていることが分かった。

したがって、高齢日本語学習者のためのプログラムに関して、これから韓国の日本語教育の新たな分野として研究および開発が求められると言えるだろう。

参考資料

インタビュー内容

〈高齢者学習者用〉

- ・性別：
 - ・年齢：
 - ・最終学歴：
 - ・日本語を始めて習った時期：
(小学校から習った場合は国語とする)
1. 今、日本語を学んでいる理由は何ですか。
 2. 福祉館の授業の以外に日本語と関連があるものをよく見えていますか。
 3. 日本語授業の中で一番興味深い点は何ですか。
 4. 勉強している教室の環境はどうですか。(不満な点がありますか。)
 5. 日本という国についての感情は。
 6. 福祉館での学習によって生活に何か変化がありましたか。
 7. ご自分の日本語の実力はどのぐらいだと思いますか。(他の人を教える機会があったらどうしますか。)
 8. これからいつまで日本語を学びたいですか。
 9. 日本人高齢者たちと交流、日本観光、韓日伝統文化交流などに参加する意向がありますか。
 10. 日本語を使って誰かの手伝いをしたことがありますか。(例) 韓国に来た日本人
 11. ボランティアとして日本人観光客の案内などをしたことがありますか。もし機会があれば経験したい

と思いますか。

12. 今、日本語の授業で使用されている教材と授業に関して足りないと思うことがありますか。
13. 今、日本語勉強をすることによって一番難しいと感じることは何ですか。
14. 日本語以外にも習いたい外国語がありますか。
15. 日本語がもっと上手になったら具体的にやりたいことがありますか。

〈日本語教師用〉

- ・性別：
 - ・年齢：
 - ・最終学歴：
 - ・日本語を教えた経歴：(具体的に)
 - ・高齢者たちに日本語を教えた経歴：
1. 高齢者たちに日本語を教えている理由は何ですか。
 2. 今、授業で使用している教材はどのようなものがありますか。
教材の活用度はどのぐらいですか。
 3. 高齢者たちを教える時一番重点を置いている部分は何ですか。
 4. 高齢者たちを教える時一番難しいと思われる部分は何ですか。
 5. 高齢者たちの授業の参加度と積極性が彼らの日本語能力と関係がありますか。(また、年齢との関係)
 6. 高齢者たちを教える時、特に研究していることがありますか。(例) 教材、参考資料、教える方法など
 7. 韓国の高齢者が日本語学習する時一番いいと思われる部分は何ですか。
 8. 高齢者たちを教える教師に特に必要だと思われる点は何がありますか。
 9. 日本の高齢者たちと韓国の高齢者たちの交流についてどう思いますか。
 10. 今の日本語の授業にもっと必要だと思われる点は何がありますか。

注

1. 「쉽게 끝내는 일본어 첫걸음 (도서출판 예가) 「일본어 첫걸음 (정진사)等
2. 国語：学校の教科過程で初めて文字を習う時使用した言語を国語とする。
3. 戦前世代：日帝強制占領期間に日本語教育を受けた70代以上を「戦前世代」と分類する。

ジャン ヨンファ／同徳女子大学女子大学院 日語日文学科
nagajapopo@naver.com